自転車の組み立て方/クイックリファレンス

●このたびは当社の自転車をお買い上げいただき、誠に有難うございます。本書は大切に保管して頂き、必要に応じてご覧ください。

1．組み立てに必要な工具

必要工具

- ① カッターもしくはニッパー（荷ほどき用）
- ② プラスドライバー（ベル・リフレクター取付用）
- ③ 6mm 六角レンチ（ハンドル調整用）
- ④ モンキーレンチ等（ハンドル調整用）

組立・調整動画がご覧いただけます。

2．本体および付属品のチェック

自転車本体を箱から取り出して頂き、梱包材を取り除き、本体に損傷や変形がないかチェックしてください。
※付属品が足りない場合や、本体に損傷や変形があった場合はご連絡ください。

付属品	ハブキャップ× ４ ・取扱説明書 × １

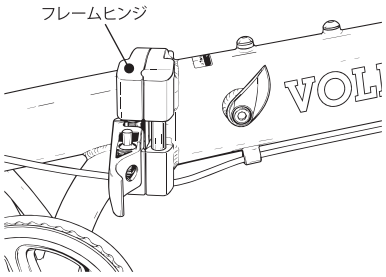
3. フレームの展開

使用工具：カッターもしくはニッパーなど

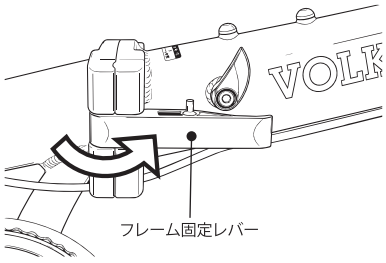
車輪とハンドルは、自転車本体にインシュロックで固定されておりますので、カッター等でインシュロックを外してください。

折りたたみ自転車は、まずフレームの組み立てから行ってください。フレーム組み立て後、サイドスタンドを立てると自立します。
折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。

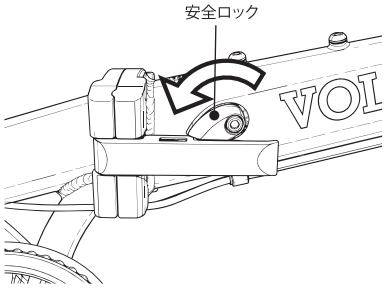
※ギヤ側真横からフレームを見た図



フレームをまっすぐに伸ばし、ヒンジ部分を密着させます。

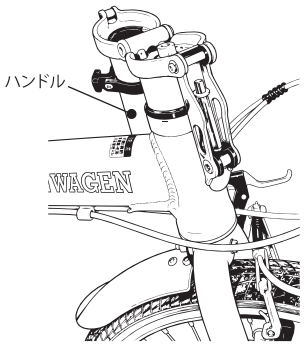


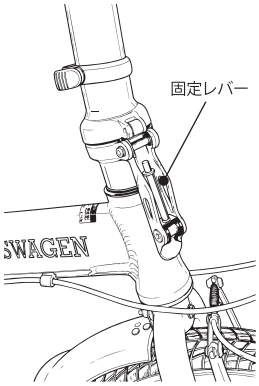
フレーム固定レバーをしっかりと閉じます。



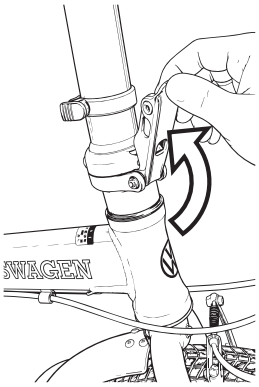
安全ロックをフレーム固定レバーのピンを覆う位置まで回してください。

4. ハンドルの展開

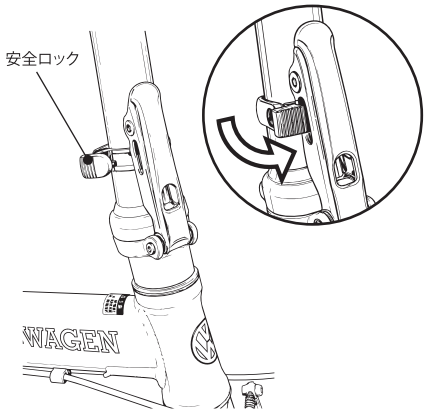




ハンドルをまっすぐに立ち上げます。

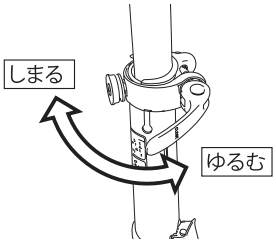


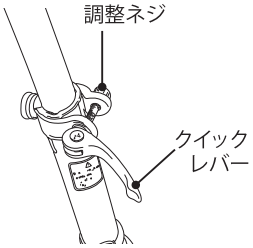
固定レバーを持ち上げ、しっかりと閉じます



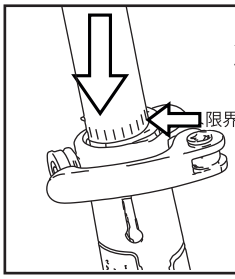
安全ロックを回し、固定レバーに差し込みます。

5. ハンドルの高さ調整





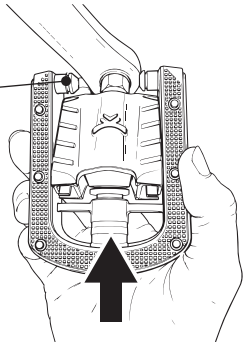
クイックレバーを「ゆるむ」の位置にしてください。ハンドルの高さを調整し、「しまる」の位置へ戻して固定してください。クイックレバーが硬すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側の調整ネジを回して調整してください。



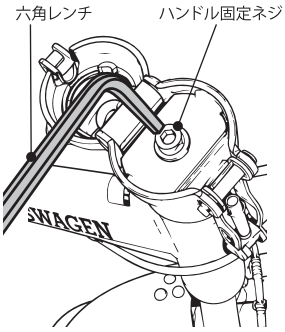
ハンドルは限界標識線が見えない位置まで差し込んでください。

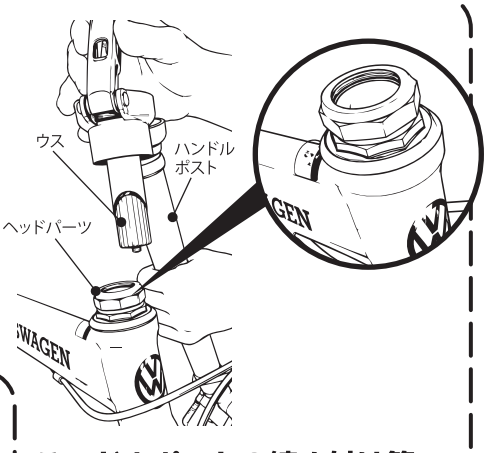
注意 ハンドルポストの限界線は、差込口のラインを超えないように注意してください。

6. ペダルの立ち上げ



折りたたんだ状態のペダルを持ち上げ、
押し込みながら立ち上げます。
カチッとロックされると完了です。
折りたたむときは、ペダルを押し込み
ロック部分を持ち上げてください。



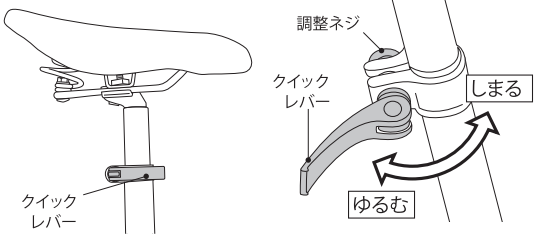


ハンドルポストの締め付け等、調整が必要な場合

当製品は、一般的な自転車とは異なり、ヘッドパーツが露出しておりません。ハンドルポストの調整が必要な場合は、上の図を参考に作業してください。

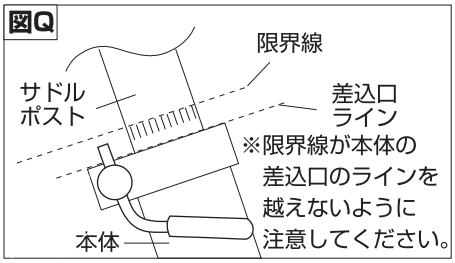
1. ハンドルポストを折りたたむと、ハンドル固定ネジがありますので、六角レンチで緩めます。
※緩めすぎると、ウスが落ちてしまうので注意。
2. ハンドルポストを引き上げ、本体より取り外します。ヘッドパーツをモンキーレンチ等で締め込むことで、ハンドルポストのガタつきが無いよう調整してください。

7. サドルの調整



クイックレバーを「ゆるむ」の位置にしてください。サドルの高さを調整し、「しまる」の位置へ戻して固定してください。クイックレバーが硬すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側の調整ネジを回して調整してください。

図Q

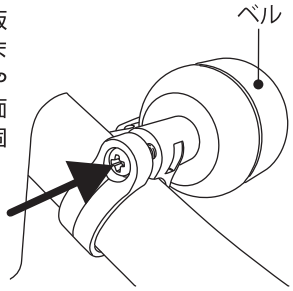


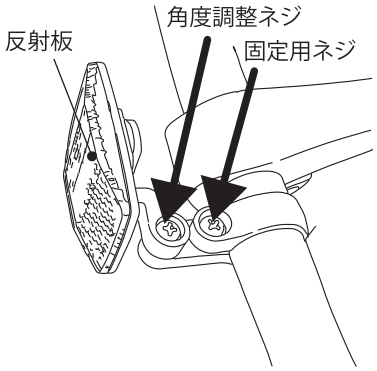
注意 サドルの高さを調整する際には、サドルポストの限界線が差込口のラインを超えないように注意してください。(図Q)

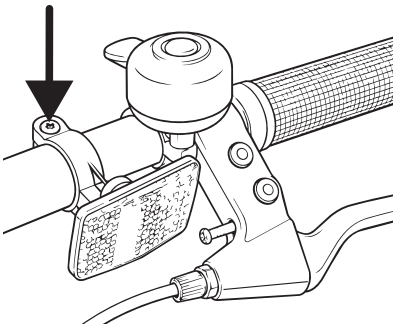
8. ベルと反射板の固定

使用工具 プラスドライバー

ドライバーでベルと反射板を適切な位置に固定します。ベルは走行中鳴らしやすい位置に、反射板は正面を向くようにしっかりと固定してください。







9. 各部の点検

●最後に組み上げた部分を点検します。
以下の点検項目のチェックを行ってください。

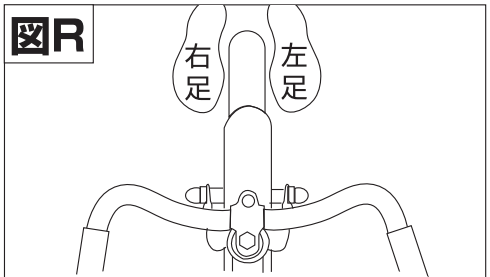
①ハンドルを左右の方向に動かした際に、緩みやガタがないか。

②ハンドルを上下に方向に動かした際に、緩みやガタはないか。

※ハンドルの固定確認は、自転車の前輪側に立ち、両足で前輪を挟んでチェックしてください。(図R)

③サドルを手で持って、左右に動かした時に動かないか。

図R



※ハンドルの固定をご確認する際は、図のようにタイヤを両足で挟み、タイヤが動かない状態でご確認ください。

⚠注意	乗車する際には毎回、固定レバーが確実にロックされているか確認してください。 ハンドルの向きに気をつけて、ブレーキワイヤー(変速機能があれば変速ワイヤーも含む)がハンドルの前側になるようにハンドルを差し込んでください。ワイヤーが絡んだり、巻きついている場合は、ハンドルを回転させたり、ハンドルを抜いて正常な状態になるように差し直してください。

※項目8の乗車前の確認は、自転車整備士有資格者が行ってください。

※ご乗車になる前には、変速機およびブレーキの調整が必要です。
(総合組立説明書の各項目をご参照ください)